

平成 19 年度事業計画

グローバル化の進展に伴い、さまざまな外国人が日本に在住し、多様な言語、文化を背景とする人々との異文化交流の促進と相互理解の発展が期待される今日、日本語教育の果たす役割はますます重要なものとなっています。

多様化する外国人の日本語ニーズに対応し、当協会の対象別のきめ細やかな日本語指導を神髄とする日本語教育をますます進化させていくことが必要となっています。

平成 18 年度の組織改革により多くの会員の力を各々の事業活動に注ぐ体制づくりがなされ、平成 19 年度には、より一層の成果をあげることが期待されます。受益者第一主義に則り、時代と社会の要請に応じて、公益法人として事業を発展させていきます。

日本語教育事業部

1. 社会人に対する日本語授業

ビジネス関係者、外交官及びその家族等への授業をプライベートレッスン、企業・機関向けプログラムをクラスの形態で実施する。日本経済の復調とともに、ビジネス関係者に対する日本語授業は回復基調が続いている。中上級学習者の比率が年々高まっている。専門分野の日本語力を高めたいという要望に加え、一般日本語力をつけたい、日本語能力試験受験対策など、レベル、学習内容とも以前にも増してより専門的に、より多岐にわたるようになっている。学習者に加え、学習者を管理する日本語研修担当者の要求も厳しくなっている。高度な授業を提供し学習者に満足してもらうだけでなく、日本語研修担当者の要求にもきめ細かく応えていく。

2. 常設クラス

協会事務所で開催している常設クラスは、主にビジネス関係者とその家族を対象に初級から中上級まで開講する。初級コースは Japanese for Busy People シリーズを使用、教科書の改訂に合わせてコース内容や教材も改訂し、よりわかりやすく効果的な授業を目指していく。中上級コースは、一般向けクラス、Japanese for Professionals 使用のビジネスに比重を置いたクラス、日本語能力試験 2 級対策クラスなどを開講する。

対象別教育養成部

1. 留学生に対する日本語教育

少子化に伴い、人材獲得の意味からも留学生に対する期待は今後ますます大きくなっていくと思われる。文部科学省と経済産業省が高度専門留學生育成事業を計画している。当協会のビジネス関係者に対する日本語指導の豊富な経験を活かし、留学生へのビジネス日本語研修を研究開発し、政府の計画に貢献していきたい。

(1) 国士舘大学 21 世紀アジア学部留学生に対する授業

同大学の授業担当は 4 年目に入る。より日本語授業に興味を持たせ、日本語力を伸ばしていくことを目指し、授業内容を一新したい。

(2) 職業能力開発総合大学校の留学生に対する授業

予備教育、学部学生の補完授業、日本語能力試験対応クラスを担当する。6ヶ月集中の予備教育では16人という少数の学生であるが、レベル差が大きい。大学校入学前に日本語力をつけさせるため、さらにプログラムを改善していく。

2. 研修生に対する日本語教育

(財)国際研修協力機構が支援し、企業が受け入れる研修生に対する授業を実施する。当協会開発の技術研修生向けテキストを使用した授業の実践を継続していく。東京近郊に研修実施組合などが少なく、授業件数が低迷している。研修生制度の実情を考慮し、授業料の見直しを検討し、事業の促進を目指して企業訪問も積極的に行っていく。

3. 年少者に対する日本語教育

小、中、高等学校に在籍する外国人児童・生徒に対する日本語授業を継続して行っていく。また、国内の年少者に対する日本語指導者への研修講座を企画実施する。学校の教員や学校での支援をしているボランティアを対象とするものと、インターナショナルスクールで年少者を教えている教師対象のものと、2種類を実施する予定である。その他、海外の中等教育課程で日本語を教えている現地教師に対する本邦研修を担当する予定である。

4. 退職教員に対する日本語教師養成

(財)日中技能者交流センターが中国へ派遣する元教員等に対する日本語指導法の研修を実施する。今年度は受講者数が増えるので2クラスで実施する予定である。

5. 日本語ボランティアに対する研修

在住外国人を支援する地域の日本語ボランティアのための研修講座を実施する。

6. 条約難民に対する日本語教育等への講師派遣

(財)アジア福祉教育財団難民事業本部の運営するセンターにおいて実施する条約難民に対する日本語教育を担当する。昨年度実施した経験を活かし、日本語力のレベル差が大きいクラスの運営方法や、学習者が自律的に学習できるための日本語教育の方法等について、さらに研究を継続する。

7. 海外日系人日本語教師に対する本邦研修

独立行政法人国際協力機構が招聘する日系人日本語教師に対する研修を基礎1、基礎2、速成、専門、指導者養成の各コースを担当する。

人材育成開発部

1. 第23回日本語教師のための公開研修講座の実施

日時：平成19年6月23日(土)13:00～16:30、24日(日)10:00～16:30

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟4階 セミナーホール

テーマ：日本語教育における「身体性」を考える

- からだで学ぶ・からだが学ぶ・からだが語る -

講師：川口義一先生(早稲田大学教授)、山田ボヒネック頼子先生(ベルリン自由大学教授)、
串田和美先生(俳優・演出家・日本大学芸術学部教授)、佐伯胖先生(青山学院大学教授・
東京大学名誉教授)、特別出演 谷川俊太郎氏(詩人)

2. AJALT 対象別日本語教え方講座の実施

一般成人向け初級教え方講座、年少者向け教え方講座、技術研修生向け教え方講座、「ビジネス日本語」教え方講座等を実施する。

3. 雑誌『AJALT』30号 - AJALT 設立30周年記念号 - の発行

特集テーマ「初級で何をどう教えるか - 学習者の立場にたった取り組み(仮)」

4. 会員研修

(1) 新入会員研修の実施

協会新入会員に対して、4月から7月まで100時間の基礎研修を実施する。

(2) 会員教師定例会の実施

現職教師会員のための定例会員研修を月2回設け、外部講師および協会内部講師による講義、分科会活動等を実施する。

(3) その他

教授法研究、教材開発および教授能力向上を目指し、対象分野別の内部研修等を実施する。

5. 教材開発と出版活動

(1) 一般成人向け教材『Japanese for Busy People』シリーズ

1) 昨年度から引き続き、改訂第3版第3巻、教師用指導書 の開発、制作を行う。

2) 『Japanese for Busy People』シリーズを補足し、付加価値をつけるオンライン教材の企画・制作を行う。

(2) 年少者向け漢字教材『かんじだいすき』シリーズの販売促進を行う。

(3) 2年計画の初年度として『かんじだいすき・復習版(仮)』の企画、開発を行う。

(4) 技術研修生向け教材『あたらしいじっせんのにほんご』シリーズの販売促進を行う。

(5) 『あたらしいじっせんのにほんご』テキストに対応する差込み資料を挿入した『教師用指導書』を制作する。

(6) 2年計画の初年度として『新聞からコミュニケーションへ - 新聞等によく使われる必須表現例文集』(CD-ROM版)の企画・開発に着手する。

(7) 外国人、日本人双方の子どもたちと保護者のための学校生活紹介教材『実写映像で学ぶ日本の学校生活とことば - ようこそ！さくら小学校へ～みんななかまだ～』(DVD版)および上記出版物の販売促進、普及活動を行う。

総務広報部

1. 広報・宣伝

英字新聞、日本語教育関連雑誌、WEB サイト等に協会事業の案内、広告を掲載する。神谷町駅ポスターの掲示、外国人向けリロケーション会社、スーパー、クリニックへのチラシ設置などを継続するとともに、新メディア利用の検討もしていく。

2. 親睦・交流

学習者との親睦・交流を図る「AJALT 交流会」等を実施する。

3. メール相談・メールマガジン

地域日本語教育の継続支援のため、「リソース型生活日本語」データベースの公開、維持管理、電子メールによる相談受付、また、メールマガジン「こだま」の発行を継続する。

4. 賛助会員・寄付の募集

協会事業の公益性、重要性を訴え、賛助会員、寄付の募集を継続する。

5. 会員広報

会員へのニューズレター、「AJALT ニュース、ひろば」を月1回発行する。

6. 会員専用ホームページ

協会ホームページは、協会事業プログラム、出版物の案内、問合せ、申込み等で重要な役割を担っているが、会員専用スペースの作成、教育用コンテンツの共有なども目指していく。

7. 事務所機能の充実

ハード、ソフトの両面において整備、見直しを図り、会員活動の利便性を高めていく。

8. 会議開催

平成19年度第1回理事会、評議員会を平成19年5月15日(火)に、第31回総会を平成19年5月24日(木)に開催する。

以上